



2019年4月15日

高野 文夫 NPO日本プレゼンテーション協会理事長

# 物事が肚に落ちるとはどういう事か？

## はじめに

ある時、超売れ子の脳科学者「茂木健一郎」氏がテレビでこう言われたのが印象的でした。人が記憶をするという事は、まず、覚えた諸々の事が、一旦脳の「海馬」という、いわば一時預かり倉庫に入るといふのです。

感動すると、「海馬という頭の倉庫」のドアが開いて、すいすいと記憶物が入ってゆーらしいのです。感動がなければ、海馬のドアが開かないから何も覚えられないのです。そう！ 閉まったドアで跳ね返って一時倉庫にさえも格納されないのだそうです。

人間の脳というものは、一旦何でもかんでも一時倉庫に格納した後、それぞれを分別して、半永久記憶の格納庫（大脳皮質）の決められたスポット（番地）に擦り込むのだそうです。

夜寝ている時がみそらしい。自動的にそれをやってくれるのだそうです。だから、人に何かお話しし、それを腹に落して頂く為には、感動・感激という触媒が必要なのだそうです。海馬を開かせる鍵になる触媒なんです！

## 1、受験勉強の落とし穴

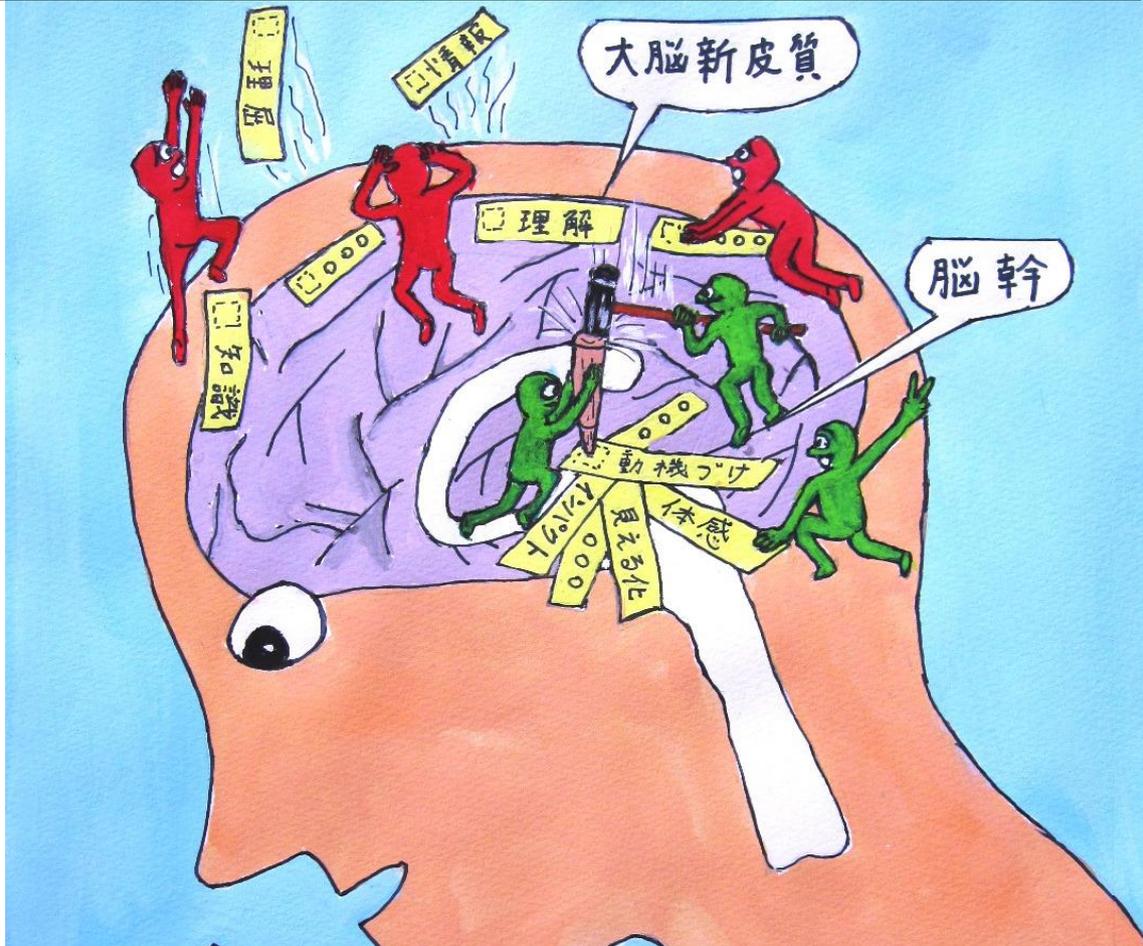
先生役がただ淡々と喋っただけでは、何も記憶されないのです。受験勉強で学んだものは、時間が経つとすっかり忘れていきますよね。それは当たり前だそうです。受験勉強で学んだ事柄には感動がないのです。

ただ暗記して合格したいという「欲」があるだけです。ですから、入学するまでのかりそめの知識になっているのです。

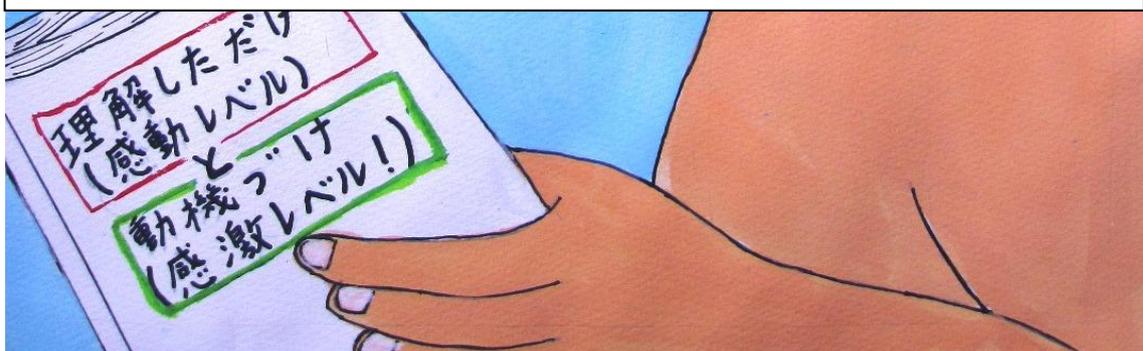
感動をもって脳の海馬に一時預かりされた知識は寝ている時とか普段の生活の間に、時間をかけて大脳皮質のきちとした記憶脳（番地）に整理されて貼りついてゆーくのだそうです。

そして、引き出して繰り返し使ってあげる事で永久的な刷り込みになるし、「とっさに出てくる短縮回路」が出来上がると説いていました。

## 実行力、おどろく程の感動・感激の研修！



**覚えただけの研修ならやらない方が良い！  
明日から実践する脳幹にぶち込む、実効力のある研修！**





## 2、企業内や社会人教育の理想形

実は感動しただけでは、脳の大脳皮質に一定期間だけ記憶されているだけで、大概4週間もすれば忘れ去られてしまいがちです。

その人の肚に落とすとか永久的に体得してもらうには、感動レベルではなく感激レベルまで持って行かねばならないのです。それには脳の間脳にあるリンベックという組織に刷り込まれなければなりません。

しかも新しい知識は古い知識に上塗りされて、改善されて進化しているのだそうです。要は、相手の腹に落とす為には、相手を「感激させるパッションをもって語る」必要があるのです。

それが相手の心（海馬）を開き、次に、間脳のリンベックに刷り込む事になるのです。

### おわりに

さいごに、どうすれば肚落ちする教え方ができるか考えてみましょう。上手く教えられないのは、次の3つの要素がバランスよく満たされていないからです。

#### ① 教えようにも自分が分かっていない

話す内容が難しすぎるか、あるいは自分の頭の中で咀嚼・整理されていず、何を話すのか当人が分かっていない。これはペダンティック（利口ぶる）な学者タイプの人にありがちです。私の大学時代、一部の教官にこの様な人がいました。

#### ② メッセージが多すぎる

話す内容が絞られていない。知っている事をすべて話さないとおさまらない人がいます。物知り博士のコミュニケーション知らずと言うものです。

#### ③ 表現が陳腐

プレゼンが下手で、相手の心を掴めず、ましてや感動を与えられない。相手のお腹に落ちる、何時までも忘れる事の出来ない感動を伴った言葉を発せられないのです。それは教える側と教わる側の人の間に心の橋（ラ・ポール）を架けられないという事です

この続きは2019年5月15日号でお話しします。